

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

お正月

平成29年1月第1週放送

「年玉を ^{としま}ならべて置くや ^{まくらもと}枕元」 正岡子規の俳句です。

お正月を迎えると、周りの雰囲気も伴って、なんとなく心躍るような気分になります。

そして、子供たちにとってはとても楽しみな、大人にとっては悩ましいかもしれませんが、お年玉の出番です。

冒頭の正岡子規の俳句は、子規がお正月に弟子に渡すためのお年玉なのか、自分がお正月にもらったお年玉なのかは分かりませんが、大人から子供へ、師匠から弟子へと、お年玉はお正月の風物詩の一つです。

何にしても、家族や親戚一同が集まって、ご馳走を食べ、ご先祖さまへの感謝と ^{ほうおん}報恩の思いをひとつにすることは大変ありがたいことです。

福井県の大本山 ^{えいはいじ}永平寺を開かれた ^{どうげん}道元禅師は、元旦に修行僧に対して次のような説法をしました。

「新年にあたって、特別な教えについて聞かれたある老師は、特別な教えは『ある』と言われた。元日はめでたく、ものみなすべてが ^{あらた}改まるからである。またある老師は、特別な教えは『ない』と言われた。私たちが生きる毎日は、どれもかけがえのないもので、元日もその一つに過ぎないからである。『ある』でもよし『ない』でも良いのだ。つまり ^{ぶつぽう}仏法において、私たちの『ある』『ない』という区別をこえたものだからだ。」と、説かれました。

そして道元禅師は、次のように説法を結んでいます。

「ある人が私に『新年の特別な教え』はあるのかと質問したならば、私は『ある』と答えよう。それはどんな教えかと問われたら、私はこう答える。『みなそれぞれが幸せでありますように』と。」

新しい縁が生まれる元日を、私たちは幸せに過ごしたいものです。

先日ラジオを聞いていたら、「お福わけ」という言葉に出会いました。なじみの無い言葉と思い、じっくりと聴いていたのですが、どうやら一般的にいう「お裾分け」 ^{すそわ}の意味だと知りました。

そしてその違いは、目上の人から ^{ちやうだい}頂戴したものを「お福わけ」と丁寧言い、

『 禅のころろ - 曹洞宗 - 』

家族や友人など身近な人から頂戴したものを「お裾分け」と言うようです。こう考えると、お年玉は「お福わけ」の一つの形でしょうか。

新年始めの仏法は、^{ほとけ} 仏様からの「お福わけ」、^{こうふく} 幸福を分けているのだと考え、それぞれの^{しあわ} 幸せを願いたいものです。

— 終 —